

1. 件名：福島第一原子力発電所における実施計画の変更認可申請（6号機燃料取り出しに伴う構内用輸送容器収納燃料（9×9燃料）の追加）に係る面談
2. 日時：令和4年4月28日（木）10時00分～11時00分
3. 場所：原子力規制庁 6階1F会議室
4. 出席者  
原子力規制庁  
原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室  
松田室長補佐、高木係長、高木技術参与  
東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー  
福島第一原子力発電所 担当4名（テレビ会議システムによる出席）

## 5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、令和4年4月27日に提出のあった実施計画の変更認可申請（6号機燃料取り出しに伴う構内用輸送容器収納燃料（9×9燃料）の追加）について、資料に基づき、主に以下の説明があった。
  - 6号機燃料取り出しに伴う構内用輸送容器収納燃料（9×9燃料）の追加について
    - ◇ 変更申請の目的
      - ✓ 6号機燃料プールには、8×8燃料と9×9燃料が貯蔵されており、8×8燃料の構内輸送の際は3種類の輸送容器（NFT-12B、NFT-22B、NFT-32B）が適用可能であるが、9×9燃料にはNFT-22Bの1種類しか適用できない。また、9×9燃料の1体は漏えい燃料であり、適用可能な輸送容器が無い状況である。
      - ✓ 燃料取り出し作業効率向上に資するため、NFT-12B型及びNFT-32B型を追加したい。また、漏えい燃料用に、4号機で漏えい燃料に対する使用実績を有するNFT-12B型を追加したい。
    - ◇ 申請内容及び補足説明
      - ✓ 構内用輸送容器の概略
      - ✓ 6号機漏えい燃料の状態
      - ✓ NFT-12B型の漏えい燃料輸送に係る技術的評価（4号機との比較）
      - ✓ 6号機燃料取り出し 今後の予定
- 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認するとともに、以下のコメント等を行った。
  - 技術的評価をする上で、比較のベースとした既認可の4号機の申請内容や評価項目について詳細に示した上で、6号機としての評価結果を示すこと。
  - 構内輸送容器の種類を追加することによって燃料搬出期間がどの程度短縮できるのか等について、説明すること。
  - 令和4年4月8日の面談にて説明があったNFT-32Bで確認された底板の傷に関し、その対応及び6号機燃料取り出し工程への影響について説明すること。

## 6. その他

資料：

- 6号機燃料取り出しに伴う構内用輸送容器収納燃料(9×9燃料)の追加

以上